



平成 17 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 17 年 2 月 4 日

上場会社名 富山化学工業株式会社

(コード番号: 4518 東証第一部)

(URL <http://www.toyama-chemical.co.jp/>)

問合せ先 代表者役職・氏名 取締役 代表執行役社長 中野 克彦
責任者役職・氏名 執行役 経営企画部長 水野 淳一

TEL: (03)5381 3818

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
税金費用及び税効果会計については、法定実効税率をベースとした年間予測税率を用いて計算しております。
最近連結会計年度からの会計処理の変更の有無 : 無
連結及び持分法の適用範囲の移動の有無 : 無

2. 平成 17 年 3 月期第 3 四半期財務・業績の概況(平成 16 年 4 月 1 日～平成 16 年 12 月 31 日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況 (注)金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年3月期第3四半期	20,863	65.5	4,011	-	3,418	-	2,763	-
16年3月期第3四半期	12,607	-	-	-	-	-	-	-
(参考)16年3月期	16,830		4,368		5,481		4,899	

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
17年3月期第3四半期	14	6	13	11
16年3月期第3四半期	-	-	-	-
(参考)16年3月期	24	91	-	-

(注)1. 売上高におけるパーセント表示は、対前年第3四半期増減率であります。

2. 売上高以外の項目につきましては、当連結会計年度より第3四半期の開示を行っているため、前年第3四半期実績及び対前年第3四半期増減率は記載しておりません。

[経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等]

当連結第3四半期の売上高は 208 億 63 百万円となりました。

このうち医療用医薬品の売上高は技術料収入を含めて 190 億 18 百万円であり、概ね計画通りとなりました。

大正富山医薬品株式会社への医療用医薬品の売上高は、本年度から取り組んでいる感染症・炎症免疫領域への注力により抗生物質製剤および化学療法剤の売上高が前年同期実績を上回り順調に推移致しました。このうち、主力品の注射用ペニシリン系抗生物質製剤「ペントシリン」、経口用ニューキノロン系抗菌製剤「オゼックス」、経口用セフェム系抗生物質製剤「トミロン」はいずれも伸長しており、注射用ニューキノロン系抗菌製剤「パシル」についても売上を拡大いたしました。また、長期育成成品のループ利尿剤「ルブラック」は市場浸透が順調に進み引き続き売上を拡大しております。

技術料収入については、ニュータイプのキノロン系抗菌製剤 T-3811(一般名:ガレノキサシン)の世界的な開発、使用及び販売権を米国シェリング・プラウ社へ再導出する契約に伴う一時金収入およびニューキノロン系抗菌点眼剤 TN-3262a(オゼックスの点眼液)の新薬承認申請に伴う東亜製薬株式会社(韓国)からの一時金収入等があり大幅な増収となりました。

費用面については、計画と大きな乖離もなく順調に推移致しました。

以上の結果から、営業利益 40 億 11 百万円、経常利益 34 億 18 百万円、第3四半期純利益 27 億 63 百万円となり、概ね計画に沿った業績推移となっております。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり 株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第3四半期	75,007	33,833	45.1	172 16
16年3月期第3四半期	-	-	-	-
(参考)16年3月期	73,969	31,030	42.0	157 83

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第3四半期	4,905	1,472	1,000	19,114
16年3月期第3四半期	-	-	-	-
(参考)16年3月期	4,973	5,611	8,501	16,937

【財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等】

財政状態の変動状況

当連結第3四半期末の総資産は750億7百万円であり、前連結会計年度末に比して10億37百万円増加いたしました。米国シェリング・プラウ社からの技術料収入86億92百万円の計上が主な要因です。

キャッシュ・フローの状況

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は技術料収入の増加等により税金等調整前四半期純利益が大幅に伸びたことに加え、たな卸資産の減少等もあり49億5百万円の収入(前連結会計年度49億73百万円の収入)となりました。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は有価証券の取得や定期預金の預入等により14億72百万円の支出(前連結会計年度56億11百万円の支出)となり、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は短期借入金の返済等により10億円の支出(前連結会計年度85億1百万円の支出)となりました。その結果、当連結第3四半期末の現金及び現金同等物の残高は前連結会計年度末残高に比して21億76百万円増加し191億14百万円となりました。

3. 平成17年3月期の連結業績予想(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

通期の業績予想につきましては、当第3四半期における業績が概ね計画通りに推移しており現時点では、平成16年11月9日に発表いたしました業績予想から変更ありません。

上記の予想は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予想を含んで記載しております。実際の業績は、今後様々な要因によって上記予想とは異なる結果となる可能性があります。

添付資料

(要約)四半期連結貸借対照表、(要約)四半期連結損益計算書、四半期連結剰余金計算書
(要約)四半期連結キャッシュ・フロー計算書など

以上

1. (要約)四半期連結貸借対照表

科 目	当連結第3四半期末 (平成16年12月31日)		(参考) 前連結会計年度末 (平成16年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(資産の部)				
流動資産				
1. 現金及び預金	9,629		7,474	
2. 受取手形及び売掛金	4,360		4,030	
3. 有価証券	16,665		15,264	
4. たな卸資産	9,293		10,486	
5. その他	2,066		2,999	
貸倒引当金	11		6	
流動資産合計	42,004	56.0	40,248	54.4
固定資産				
1. 有形固定資産				
(1) 建物	7,599		7,948	
(2) 機械及び装置	1,143		2,033	
(3) 土地	12,736		12,794	
(4) その他の有形固定資産	1,141	22,620	1,056	23,833
2. 無形固定資産		669		931
3. 投資その他の資産				
(1) 投資有価証券	5,450		5,490	
(2) 繰延税金資産	951		1,004	
(3) その他	3,474		2,599	
貸倒引当金	172	9,704	171	8,922
固定資産合計	32,994	44.0	33,687	45.5
繰延資産	8	0.0	34	0.1
資産合計	75,007	100.0	73,969	100.0
(負債の部)				
流動負債				
1. 支払手形及び買掛金	3,065		3,223	
2. 短期借入金	4,377		5,014	
3. 一年以内償還予定の転換社債	7,941		7,942	
4. 未払法人税等	118		11	
5. 賞与引当金	86		234	
6. 返品調整引当金	8		4	
7. その他	1,199		1,647	
流動負債合計	16,796	22.4	18,076	24.4
固定負債				
1. 社債	50		50	
2. 長期借入金	9,336		9,581	
3. 繰延税金負債	-		1	
4. 再評価に係る繰延税金負債	2,451		2,468	
5. 退職給付引当金	11,844		11,901	
6. 役員退職慰労引当金	647		696	
7. その他	46		40	
固定負債合計	24,376	32.5	24,740	33.5
負債合計	41,173	54.9	42,817	57.9
(少数株主持分)				
少数株主持分	-	-	121	0.1
(資本合計)				
資本金	22,397	29.9	22,397	30.3
資本剰余金	21,531	28.7	21,530	29.1
利益剰余金	9,210	12.3	11,997	16.2
土地再評価差額金	1,590	2.1	1,565	2.1
その他有価証券評価差額金	958	1.2	883	1.2
自己株式	252	0.3	217	0.3
資本合計	33,833	45.1	31,030	42.0
負債・少数株主持分及び資本合計	75,007	100.0	73,969	100.0

2. (要約)四半期連結損益計算書

科 目	当連結第3四半期 自平成16年4月1日 至平成16年12月31日		(参考) 前連結会計年度 自平成15年4月1日 至平成16年3月31日	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
売上高	20,863	100.0	16,830	100.0
売上原価	9,674	46.4	12,129	72.1
売上総利益	11,188	53.6	4,701	27.9
返品調整引当金繰入額	4	0.0	-	-
返品調整引当金戻入額	-	-	18	0.1
差引売上総利益	11,184	53.6	4,719	28.0
販売費及び一般管理費	7,173	34.4	9,087	54.0
営業利益又は営業損失()	4,011	19.2	4,368	26.0
営業外利益				
1. 受取利息	54		61	
2. 受取配当金	23		61	
3. 受取家賃	33		44	
4. 持分法による投資利益	80		-	
5. その他	99	291	257	425
営業外費用				
1. 支払利息	301		569	
2. 為替差損	240		7	
3. たな卸資産評価損	174		250	
4. 持分法による投資損失	-		300	
5. その他	167	884	410	1,539
経常利益又は経常損失()		3,418		5,481
特別利益				
1. 有形固定資産売却益	14		85	
2. 貸倒引当金戻入額	-	14	7	93
特別損失				
1. 有形固定資産売却損	73		-	
2. ソフトウェア除却損失	-	73	161	161
税金等調整前四半期純利益又は、 税金等調整前当期純損失()		3,358		5,550
法人税、住民税及び事業税	23		34	
法人税等調整額	571	594	345	310
少数株主損失()		-		340
四半期純利益又は、 当期純損失()		2,763		4,899

3. 四半期連結剰余金計算書

科 目	当連結第3四半期 自平成16年4月1日 至平成16年12月31日		(参考) 前連結会計年度 自平成15年4月1日 至平成16年3月31日	
	金 額 (百万円)		金 額 (百万円)	
(資本剰余金の部)				
資本剰余金期首残高		21,530		21,530
資本剰余金増加高				
1. 社債の転換	0	0	-	-
資本剰余金四半期(期末)残高		21,531		21,530
(利益剰余金の部)				
利益剰余金期首残高		11,997		7,098
利益剰余金増加高				
1. 四半期純利益	2,763		-	
2. 土地再評価差額金取崩額	25	2,789	-	-
利益剰余金減少高				
1. 自己株式処分差損	2		-	
2. 当期純損失	-	2	4,899	4,899
利益剰余金四半期(期末)残高		9,210		11,997

4.(要約)四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	当連結第3四半期	(参考)
	自平成16年4月1日 至平成16年12月31日	前連結会計年度 自平成15年4月1日 至平成16年3月31日
	金額 (百万円)	金額 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
1.税金等調整前四半期純利益又は当期純損失()	3,358	5,550
2.減価償却費	990	1,630
3.長期前払費用償却額	13	20
4.繰延資産償却額	25	34
5.貸倒引当金の増減額(減少:)	8	9
6.賞与引当金の増減額(減少:)	147	221
7.退職給付引当金の増減額(減少:)	56	287
8.役員退職慰労引当金の増減額(減少:)	48	12
9.受取利息及び受取配当金	77	123
10.支払利息	301	569
11.為替差損	256	1
12.持分法による投資利益	80	-
13.売上債権の増減額(増加:)	330	12,799
14.たな卸資産の増減額(増加:)	1,192	1,669
15.仕入債務の増減額(減少:)	201	430
16.預り金の増減額(減少:)	692	524
17.その他	555	1,796
小計	5,065	5,477
18.利息及び配当金の受取額	64	121
19.利息の支払額	225	496
20.法人税等の支払額()	15	128
21.法人税等の還付額	15	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,905	4,973
投資活動によるキャッシュ・フロー		
1.有価証券の取得による支出	8,294	12,189
2.有価証券の売却による収入	6,695	7,593
3.有形固定資産の取得による支出	323	188
4.有形固定資産の売却による収入	941	169
5.投資有価証券の取得による支出	14	871
6.投資有価証券の売却による収入	208	270
7.定期預金の預入による支出	1,420	2,169
8.定期預金の引出しによる収入	948	1,787
9.少数株主からの子会社株式取得による支出	33	-
10.その他	179	12
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,472	5,611
財務活動によるキャッシュ・フロー		
1.短期借入れによる収入	478	12,823
2.短期借入金の返済による支出	1,065	28,702
3.長期借入れによる収入	-	8,000
4.長期借入金の返済による支出	294	590
5.少数株主への配当の支払額	94	-
6.自己株式の取得による支出	66	32
7.自己株式の売却による収入	42	-
8.配当金の支払額	-	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,000	8,501
現金及び現金同等物に係る換算差額	256	1
現金及び現金同等物の増減額(減少:)	2,176	9,141
現金及び現金同等物の期首残高	16,937	26,079
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	19,114	16,937

平成 17 年 3 月期 第 3 四半期業績概要 付帯資料

医療用医薬品等主要製品売上高

(単位:百万円)

	平成 17 年 3 月期	平成 17 年 3 月期
	年間(予想)	第 3 四半期
医療用医薬品	22,300	19,018
ペントシリン	3,700	2,818
トミロン	2,900	2,334
オゼックス	1,800	1,394
ルブラック	1,200	761
パシル	1,100	729
つくしAM散	600	550
ハロスボア	450	302
タゾシン	400	350
その他	1,400	1,029
技術料収入	8,750	8,749
医療用医薬品以外	300	255
単体合計	22,600	19,274
連結子会社	2,200	1,589
連結合計	24,800	20,863

新製品開発状況

国内開発

平成 17 年 2 月 4 日

開発段階	開発番号 または 商品名	剤形	薬効	特徴	備考
申請中	T-614 (コルバット)	経口剤	抗リウマチ剤	疾患修飾型抗リウマチ剤(DMARD)。炎症性サイトカイン産生の抑制作用、免疫グロブリンの産生抑制作用を有しており、臨床試験で関節リウマチの優れた改善作用が認められた。 2003年9月申請済み。	<国内> エーザイと共同開発 <海外> 南アフリカ: Phase a 終了(自社) 韓国: 東亜製薬へ導出
申請中 (適応症 追加)	パシル点 滴静注液	注射剤	ニューキノロン系合成抗菌剤	国産初の注射用ニューキノロン系抗菌製剤。2002年9月発売済み。 幅広い領域の適応症を有し、軽症～重症の感染症に優れた効果を示す。また従来のニューキノロン剤で懸念されている中枢神経作用や過敏症などの重大な副作用発現率は低く安全性が高い。 2004年4月申請済み。	「レジオネラ感染症」の 効能追加
申請中	TN-3262a (枕っか点眼液 0.3%)	点眼剤	ニューキノロン系合成抗菌剤	経口剤「オゼックス錠」の点眼用剤として開発。ニューキノロン系点眼剤として初めて小児を対象とした臨床試験を実施し、有効性と安全性を確認した。 また、点眼液として初めてクラミジア結膜炎(トラコーマ)の適応症を申請。 2004年6月申請済み。	<国内> ニデックと共同開発 大塚製薬と販売提携 <海外> 韓国: 東亜製薬へ導出
Phase	T-3811	経口剤	ニュータイプ のキノロン系 合成抗菌剤	既存のニューキノロン剤とは異なる構造を有し、特に呼吸器感染症の多剤耐性菌を含む起炎菌に高い抗菌力を示す。 また、安全性面では関節毒性が弱いことより、小児への適応の可能性も考えられる。	一般名: Garenoxacin <国内> 大正製薬と共同開発 <海外> 米国: エリグ・プラ社へ 導出
Phase		注射剤			
Phase	T-588	経口剤	アルツハイマー型痴呆症・ 脳血管障害後 遺症治療剤	神経細胞保護作用、神経突起進展促進作用を有している。アルツハイマー型痴呆症を対象とした臨床試験を実施。 一方、緑内障にも有効性が期待される。	<海外> 英: Phase a 終了(自社)
非臨床 試験	T-5224 (AP-1 阻害剤)	経口剤	抗リウマチ剤	転写因子 AP-1 を阻害することにより、免疫異常だけでなく、関節破壊をも抑えることができ、関節リウマチの根本治療薬として期待できる。	科学技術振興機構から の国内開発委託事業
非臨床 試験	T-1106	経口剤	抗ウイルス剤	C型肝炎治療剤。HCV RNA ポリメラーゼに対し強い活性を示す。	
非臨床 試験	T-2307	注射剤	抗真菌剤	既存薬とは異なる新規な作用機序を持ち、広範な抗真菌スペクトルを有する。 また、耐性菌にも有効。	

海外開発

開発段階	開発番号 または 商品名	剤形	薬効	特徴	備考
申請 準備中	T-3811	経口剤 注射剤	ニュータイプの キノロン系 合成抗菌剤	幅広い抗菌スペクトルを持ち、P R S P、 M R S Aなどの耐性菌にも有効である。 優れた体内動態で、1日1回の投与。 呼吸器感染症から、外科系感染症までの 幅広い適応を持つ。 合成抗菌剤だけではなく、セフェム、ペ ニシリン、マクロライド等幅広い対照薬 との臨床試験の結果、同等以上の優れた 有効性、安全性が証明されている。 米国で、2005年後半申請見込。	< 導出先 > 米国シリング・プラウ社
Phase 準備中	T-817MA	経口剤	アルツハイマ ー型痴呆症	T-588 の神経細胞死抑制作用を強力にし た化合物。 また、神経突起進展促進作用も有して おり、病態モデルで優れた有効性を示し ている。	< 海外 > 米国：2005年前半に Phase I 開始予定